

a 学校教育目標	「まなび つながり みらいを創る」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像)学びを通して深くつながり、つながりを通して豊かに学び、ともに未来を描く学校
----------	-------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	主体的な学びの充実	基礎学力の定着	○家庭学習の習慣化 ○放課後学習の徹底と内容の精選 ○「本時の問い」と「振り返り(R80)」のつながりを意識した授業改善	実力テスト (「知・技」B評価以上の生徒の割合)	80%	86.6%	108.3%	A	・1学期実施した2回の実力テストにおいて1、3年生はどちらも80%以上を達成し、2年生は達しなかったが6.7ポイント向上した。学年の実態を踏まえた放課後学習プリント、各教科の小テスト等による反復ドリル学習の成果と考える。	・放課後学習プリントの継続と支援を要する生徒への個別指導を行う。 ・各教科で宿題を精選し、家庭学習時間の確保と充実・定着を図る。	○			・目標の達成の方策は適正にされている。問いを問う問題は生徒の弱点を見抜かれた学習方法と思った。 ・1・3学年は目標を達成し、学力的に課題の大きい第2学年の生徒も2回目には0.7ポイントの上昇がみられ、先生方の学力向上の取り組みが成果を挙げつつあると思います。
		四中言語能力の育成を目指した授業改善と探求的な学習(PBL)の充実	○生徒自身が思いや考えを基に思考したり表現する場の設定と多様な学習形態の展開(グループ学習、ペア学習、個別最適など)等 ○読解力育成(実態把握と定期試験問題の見直し) ○効果的なICT機器の活用 ○「総合的な学習の時間」での、生徒の主体的な学習の場の設定	前期:実力テスト (「思・判・表」B評価以上の生徒の割合) 後期:標準学力調査 (「思・判・表」の5教科平均)	前期:80% 後期:全国比80%	84.6%	105.8%	A	・達成値84.6%で、目標値を4.6%上回ることができた。1学期実施した2回の実力テストにおいて1、3年生はどちらも80%以上を達成し、2年生は達しなかった。しかし、1回目の実力テストより2回目の実力テストでは0.7ポイント向上した。定期試験での「問いを問う問題」や授業での生徒自身が思いや考えを基に思考したり表現する場の設定の成果と考える。	・質の高い問いを問う問題の設定を行う。 ・生徒一人ひとりが自分の思いや考えをもとに思考、表現できる場を設け、グループ学習、ペア学習、個別最適など多様な学習形態を組み合わせる。	○			・家庭学習のフォローには保護者の協力も必要。 ・生徒の発表の場が今回の参観では1つの授業だけだった。人前での発表が多くあれば良いのですが… ・目標値を上回ることができ、良かったと思います。2年生においては、それでも0.7ポイント向上しているので結果としては出ているので良いと思います。
豊かな心・健やかな体の育成	自己認識と自尊感情の向上	生徒会活動の充実	○縦割り集団を生かした地域貢献活動や校内活動の計画実施 ○生徒の主体的な取組や頑張りへの肯定的評価	生徒アンケート肯定的評価の割合 <項目>縦割り班での活動や生徒会活動は、自分の成長につながっている	80%	90.4%	113.0%	A	・達成値90.4%で、目標値を10.4%上回ることができた。1学期に実施した須波小への出前授業や、運動会、日々の掃除や給食などで、学校全体や縦割り集団で活動する中で、お互い刺激や達成感を感じていると考える。	・生徒会執行部が変わったり、生徒の人数が変化しても、実行可能な行事や取り組みを教職員や生徒で考え、保護者や地域の方の力を借りながら計画していく。	○			・数少ない生徒さんが丸となって考えを出し合い充実した活動をしてほしい。 ・体力向上の取り組みをお願いします。 ・どんな弁当ができたのか、健康の思い等学校だよりに掲載してください。
		生徒指導・教育相談活動の充実	○生徒アンケート・i-check等による実態把握と組織での早期対応	生徒アンケート肯定的評価の割合 <項目>先生は気軽に相談に応じてくれる	80%	95.2%	119.0%	A	・達成値95.2%で、目標値を15.2%上回ることができた。担任による学期始めの全員面談で相談しやすい環境をつくっている。生徒連携と、担任や学年団の思いを教職員間で共有することで、個に合わせた声かけや対応ができていていると考える。	・教職員間で速やかに連携することは継続していき、必要な時は保護者に伝えたりすること、ご家族の協力も得ながら話しやすい環境をつくっていく。	○			・中学校の時は、思春期で心身の安定や友達との関係が不安定になりがちです。そのような状況を踏まえ、先生方が相談しやすい環境を作られたり、学期ごとに面談を行ったりして、丁寧にご指導されていることは生徒の安定につながると思いました。 ・縦割り班での活動など工夫した計画がうまくいっていると思う。
	体力の向上と健康の増進	体力の向上	○リズムトレーニングによる体力づくりの推進	校内体力テスト (年3回実施) <項目>立幅跳で前年度平均値を超える生徒の割合	50%	43.0%	86.0%	B	・達成値43%で、目標値を7%下回った。長期休業中の運動量による差が出たと考えられる。授業だけでなく、自分に必要なトレーニングを考え、実施する力が必要だと考える。	・立ち幅跳びの記録の変化がわかるようにする。 ・体育の授業での補強運動を、生徒が考え、自分たちで進めていくようにする。	○			・人数が少ないが中学生でも縦割り班での活動や給食をみんなで食べるというのは、四中の良いところでいいことだと思います。 ・小学校との連携で、四中の生徒が増えるといいなと思います。
		健康教育の推進	○食育の推進(「自分で作るお弁当の日」の実施)	生徒アンケート肯定的評価の割合 <項目>自分の健康を考えるきっかけになっている	80%	/	/	/	・アンケート未実施(10月25日予定)。家庭科担当教員と連携し、夏休みの調理実習の課題を設定し、主食、主菜、副菜を整えたり、家族と調理をする機会を設定した。	・「自分で作るお弁当の日」(10/25)を実施し、自分の健康について考えるきっかけにする。	○			
業務改善の推進	子供と向き合う時間の確保	効率的で組織的な校務運営・業務改善	○分掌会議の定例開催と水曜日の放課後の時間を使った校内研修や学年会等の定例化・活性化	教職員アンケート肯定的評価の割合 <項目>生徒と向き合う時間の確保につながっている	80%	90.0%	112.5%	A	・達成値90%で、目標値を10%上回ることができた。分掌会議はほぼ日時を変更することなく定期的に開催できており、校内研修も計画通り進められている。学年会については職員室での会話の中で学年内の情報共有はできているが、定例化は十分にできていない。	・見通しを持った学年経営ができるように学年会を月に1回定例化する。	○			・生徒は上手に気持ちを言葉に出来ないこともあります。先生方の言葉のかけ方次第で気持ちが楽になると思っています。 ・様々な行事があり調整が大変かと思われそうですが、早めのスケジュール管理で様々な会議の定例化を図り、情報の共有や指導の方向性の検討等を計画的・効率的に行い、子供と向き合う時間の確保に取り組まれていると思います。 ・スムーズな運営で今回の結果がはつきり出ていて良いと思います。
信頼される学校	開かれた学校づくり、保護者・地域に信頼される学校づくりの推進	公開性・信頼度の向上	○授業参観日や懇談会、学校公開日等の定期実施とその工夫 ○学校だより、HPによる情報発信	保護者アンケート肯定的評価の割合 <項目>学校の様子がわかる	75%	95.6%	127.5%	A	・達成値95.6%で、目標値を20.6%上回ることができた。授業参観日は、PTAの要望もあり9月に新たに実施ができた。学校だより発行、HP更新も毎月行う事ができた。行事予定表の早めの配付要望が保護者からあった。	・須波小や地域の方にも、本校の様子が伝わるように、学校だよりやHPの内容を創意工夫していく。行事予定表の配付は、2カ月前までお知らせする。	○			・小中の交流は期待しています。四中に行きたい生徒が増えるといいですね。地域の方々も吹奏楽部の演奏は楽しみにしています。 ・今年度、小学校のブロック公開研の実施やCSの導入もあり、中学校と連携させていただきながら、豊かな教育課程の創造と組織の確立を図ったため、多少の課題はありましたが、たくさんの交流を円滑に実施することができ、小・中のつながりが深まったと思います。
		小中連携教育の推進	○小中連携協議会の定期開催 ○研究授業等の合同研修会や合同行事の計画的な交流	教職員アンケート肯定的評価の割合 <項目>小中連携の取組は、お互いの理解を深め、中学校区として系統的な取組になっている	80%	90.0%	112.5%	A	・達成値90%で、目標値を10%上回ることができた。出前授業、地域クリーン活動、保育実習など須波小児童との交流は盛んに行われた。行事の役割分担等について小中の教職員同士の連携が十分にできていなかった部分が見られた。	・生徒たちの小中交流行事は下半期では11月に須波小の学習発表会で吹奏楽部が演奏を披露する予定がある。これまで実施された行事の成果と課題を整理し、来年度の小中交流行事の計画を須波小と連携しながら作成する。	○			・小中の交流は今後も継続して行ってほしいです。 ・すぐで学校便りや学年便りが見られるようになり、保護者も学校の様子や行事がわかりやすく、良いと思います。

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。